

むかしむかし、あるお寺の床下に、タヌキが住んでいました。

このタヌキは頭の毛がうすい事から『はげダヌキ』と呼ばれていたのですが、
何とこのはげダヌキは人助けが大好きなのです。

ある年の暮れの事、はげダヌキがお寺の近くのとうふ屋へ油揚げをもらいに
行くと、とうふ屋の主人がため息をついていました。

「困ったな。こうもお金がなくて、とうふをつくる豆も買えない」

これを聞いたはげダヌキは、とうふ屋の主人に言いました。

「心配せずとも大丈夫。いつもおいしい油揚げをいただいている恩返しに、おいらが何とかしまし
よう」

そしてはげダヌキは、きんぴかのやかんに化けて自分を売るように言ったのです。

やかんは間もなく、通りかかった金持ちの旦那に買い取られました。

「これは良い買い物をした。全く素晴らしいやかんだ。もっとみがけば、もっと光るかもしれんぞ」

だんなはさっそく、やかんをみがき始めました。

やかんに化けていたはげダヌキは、くすぐったいやら痛いやら。

でも、ばれてはいけないので、じっと我慢していると、みがかれすぎて、ただでさえうすい
頭の毛をツルツルにされてしまいました。

(ああっ、大切な頭の毛が・・・)

これ以上みがかれてはたまらないので、はげダヌキは旦那が手を離れたすきに逃げ出して、お寺
の床下に隠れました。

「ああ、こんなツルツル頭では、恥ずかしくてどこにも行けないや。でも、とうふ屋に恩返し
が出来て良かった、良かった」

それからのはげダヌキは人助けを続けて、人々に大切にされたと言う事です。

---- おしまい ----

中文

亮晶晶的鐵壺

很久很久以前，有座寺廟的地板下面，住著一隻狸貓。

這隻狸貓的頭髮很稀疏，所以被稱做禿頭狸貓，但牠非常喜歡幫助別人。

有一年年底，禿頭狸貓到寺廟附近的豆腐店拿取油炸豆腐時，聽到豆腐店老板正在嘆氣。

“真傷腦筋呀，像這樣賺不到什麼錢的話，連做豆腐的豆子都買不起了。”

禿頭狸貓聽到後，對豆腐店老板說：

“別擔心，沒問題的。作為你一直給我油炸品的回報，我會想辦法幫你的。”

於是，禿頭狸貓變成一個亮晶晶的鐵壺，說是把我賣了吧！

不久，鐵壺被路過的一個有錢老爺買走了。

“這次買賣真划算啊！真是個極好的鐵壺。多擦幾下，或許會變得光亮起來。”

立刻，老爺開始擦起鐵壺。

變成鐵壺的禿頭狸貓，只覺得又癢又痛。

但是，因為不能被發現呀！只能一動也不動地忍耐。但是，也擦得太用力了，原本毛髮稀疏的頭真的滑溜起來。

（啊，我碩果僅存的頭髮啊！！！）

再這樣下去哪受得了！禿頭狸貓趁老爺的手離開的瞬間逃了出去，躲回寺廟的地板下。

“啊，這樣光溜溜的頭，真是難為情，哪兒也不能去了。不過，還好，算是報答了豆腐店的老板。太好了，太好了！”

在這之後，禿頭狸貓仍然繼續幫助人，牠的故事也一直被人傳頌著。

----- 結束 -----